

年 組 名前：

ひなづる漬け復活へ機運醸成 長カブ栽培の市民表彰

上野原・秋山中生徒が企画

特産のひなづる漬けが生産休止となっている上野原市の秋山地区で、秋山中の生徒が原料の「東京長カブ」の栽培復活に向け

ひなづる漬けは約50年前、旧秋山村が新たな特産品で観光PRにつなげようと考案。生産を担う地区住民でつくる協議会メンバーの高齢化により、2022年から製造を休止している。

生徒は昨年度には、カブの新たな味わい方を発信しようとして、レシピ集をつくった。今回のコンテストは、地域課題の解決に向けて取り組む「あきやまタイム」の一環で企画。生産者が減ったカブのPRとひなづる漬けの復活への機運を高めようと、1〜3年生15人が計画を進めてきた。

生徒は、カブの種まきを始める夏ごろから住民に種を配布。カブの栽培とコンテストへの参加を呼びかけ、住民約30人が参加した。生徒は「1ベルカブ賞」と題し、形と重さの2部門に分け、全参加者を表彰した。

た取り組みを始めた。栽培する市民を表彰する「長かぶコンテスト」を初めて企画、23日は表彰式を行った。生徒たちは「カブをつくる人が増え、ひなづる漬けの復活にもつながったらうれしい」と期待している。

〈飯野椋平〉

リントしたミニバッグや手ぬぐいを渡した。

学校によると、来年度の開催も検討している。1年生原田亜美さんは「多くの人が参加してくれてうれしかった。来年もカブをつくってほしい」と話した。

(2024年11月24日付 山梨日日新聞 17面)

問1

秋山中の生徒が、「東京長カブ」の栽培復活に向けた取り組みを始めた理由を教えてください。

.....

.....

問2

ひなづる漬けが、50年前に考案された理由と、現在、製造を休止している理由を教えてください。

・考案理由：

・休止理由：

問3

コンテストの参加者には、賞状と何を渡しましたか。

.....